

テーブルの向こう側から 補足資料

～Vol. 28～

2018年8月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動の目的は、日本における健康的な食生活の推進と支援先の途上国での学校給食の提供の両立です。TFTが定期的に発行しているニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

また、食堂をご利用される皆さまにさらに親しんでいただけるよう、今後も様々な面で改善を重ねてまいりたいと考えております。皆様からご意見・ご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

タンザニア・ザンジバル諸島での給食支援プログラム

2018年2月に、TFTの張がタンザニアのザンジバル諸島を訪問しました。TFTは、2014年からザンジバル諸島で、特に貧困家庭が多い2地域9校の小学校で学校給食を提供してきましたが、皆さまのご支援のおかげで、2017年からは、新たに開校した小学校1校でも給食プログラムを開始することができました。

今回のテーブルの向こう側と補足資料では、継続的な給食支援が、子どもたちや地域住民にもたらした変化を、現地の声とともににお届けします。

日本国内での活動状況のお知らせ

＜これまでに寄せられたご寄付＞ *TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 6,176万1,457食分 (2018年5月時点)

東アフリカとアジアの6カ国（ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

＜宿泊施設全体を通じてTFTへの寄付ができる“サスティナブルホステル”がオープン＞

業界初となる宿泊施設全体を通じて寄付ができるホステル “KIKKA”が、8月東神田にてオープンします。

同ホステルでは、サスティナブル（持続可能な社会）をテーマにかけ、宿泊や食事を通して無理なく自然な形で社会に循環させる仕組みが誕生しました。使い捨てのアメニティを使用しない、連泊時にシーツやタオルを交換しない、特定のドリンク・メニューを注文するなど、施設を通じての様々な選択がTFTへの寄付に繋がります。

8月東神田にてグランドオープン、宿泊予約を開始しました！

是非ご利用ください。

<https://seven-garden.com/ja/hotel/KIKKA>

Facebookページで情報発信中

www.facebook.com/tft.jp/





2017年10月から新たに給食支援を始めた学校がある地域は、島の中心地・ストーンタウンから車で1時間ほどの場所に位置しています。この地域は、水や電気等のインフラが整っていなく、200人ほどいる住民の9割以上が、充分な現金収入を持たない零細農家です。

地域住民が住む家は、ほとんどが、木材や石、土を敷き詰めて、茅葺（一部トタン）屋根の簡易な造りのものです。雨漏りを防ぐには不十分で、土床からの浸水も。



貴重な栄養源・収入源である家畜も、食料不足で痩せ細っていました。

子どもたちに不足している栄養素「ビタミンA」を補給するオレンジさつまいも

給食プログラムが始まる前、イギリスのインペリアルカレッジによって実施された調査にて、ザンジバル諸島の子どもたちに不足している栄養素が「ビタミンA」だと分かりました。ビタミンAの摂取量が足りないと、下痢やマラリアによる致死率が高くなり、失明のリスクも高まってしまいます。そのような状況を受け、ビタミンAの含有量が高い「オレンジさつまいも」を学校給食の材料として採用しました。子どもたちが週2~3回オレンジさつまいもを食べることで、必要とされる摂取量の1.5倍量のビタミンAを摂ることができます。



4歳から20歳までが通う、村で唯一の小学校

TABLE FOR TWO

ムゴンジヨニ小学校は、2017年1月に開校した村で唯一の小学校で、現在、4歳から20歳まで117名の生徒が通っています。2017年10月の給食の提供が始まる前までは7割だった出席率が、現在は9割に改善しました。子どもたちは、何も食べずに学校に来るため、給食は朝10時に提供しています。



写真左）学校が開校した昨年、初めて就学した16歳と18歳の兄弟。「それまでは、両親の仕事（農業、木こり）を手伝ったり、幼い兄弟たちの面倒を見るのが日課だった。今朝は何も食べていなく、夕飯も食べれない時もある。理科と数学と英語が好きで、将来は、医者になりたい」と話してくれました。

給食を提供し始めて3年経過した小学校では、進級・進学率が飛躍的に向上

ザンジバル諸島の小学生は、4年時に進級試験、6年時に卒業試験を受けます。給食を提供し始めて3年経過した小学校では、それまで2割に満たなかった進学率が、9割まで向上するなど、子どもたちの学力が飛躍的に向上しました。

写真右下）5人の子どもの母親であるナンボトさんコメント：

「給食プログラムが始まってから、子どもたちが病気になることが少くなりました。今では、風邪をひいても、『学校に行きたい』と言います。3年前はそんなことなかったので、給食が学校に行って勉強するモチベーションになっているのは、とても嬉しいです。」



TABLE FOR TWO

給食の材料は地産地消。安心・安全で、 地元農家の収入向上にも貢献する給食プログラム

TABLE FOR TWO

地元の農家に技術指導をし、栽培した野菜を買い取って給食の食材にするという取り組みを行っています。3年前から本プログラムに参加している農家グループは、技術を学んだおかげで徐々に栽培量を増やすことに成功し、今では、学校との契約量以上の収量があるため、市場でも販売できるようになりました。現金収入を得て、茅葺屋根の簡素な家から石造りの家に引っ越したり、子どもを中学校に進学させることができるようになった人も出てきています。

Before (イメージ)



After



現金収入を得たら少しづつ増築。
石造りの家は2019年完成予定。



ピリさんは、シーズン毎の農作物の収量や販路拡大実績が評価され、ザンジバルの女性農家を表彰する制度で、銀賞を受賞しました。

TABLE FOR TWO スタッフより

今回の視察では、新たに支援を始めたばかりの学校と、給食を提供して3年が経過している学校の両方を訪問しましたが、子どもたちや両親、地域住民の皆さんの活力に違いが見られたのが印象的でした。前者に比べて後者の子どもたちは、表情も身体も元気で、炎天下の中を走り回っていました。前者の村では、日陰で休んでいる母親の姿を多く見かけましたが、後者は、母親たちが積極的に学校にも出向いて、給食プログラムの手伝いをしたり、談笑したりしていました。

「人生で一番大事なものは？」という質問に「Education (教育)」と答えた小学校6年生の女の子に会いました。「教育だけが自分の生活を助けてくれる。私は、一生懸命勉強して、将来はパイロットになって日本にも行きたい！」と続けた彼女の、力強いコメントと未来への希望に満ちた瞳が忘れられません。

(TFT事務局：張)



(写真左) 小学校6年生のヘルミナちゃん

TABLE FOR TWO